

PSS会社説明会



平成27年2月25日
プレシジョン・システム・サイエンス株式会社

1,第30期第2四半期決算と通期の見通し

2,PSS中期事業計画(平成27年6月期～平成29年6月期)進捗

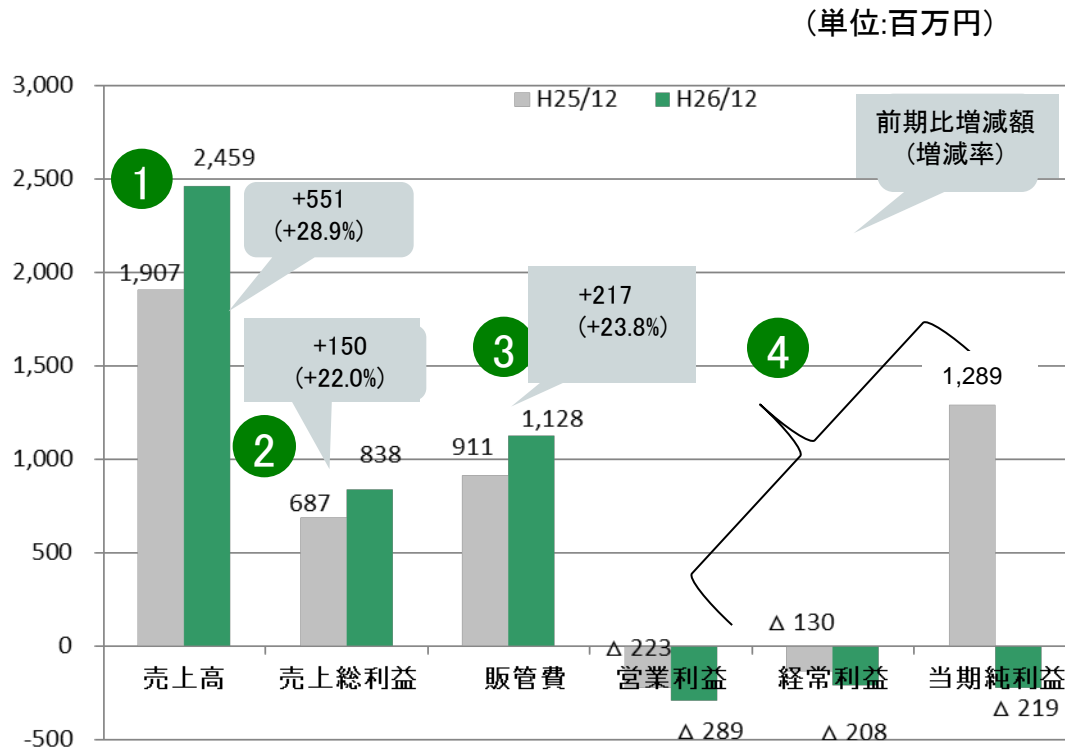
3,トピックス (上田診断システム開発本部長より)

1,第30期第2四半期決算と通期の見通し

第30期(H27/6)2Q連結累計期間業績について

- 対前期比増収減益
- 為替差益の発生(77百万円)により営業外収益が発生
- 前年同期は多額の特別利益(投資有価証券売却益)を計上

● 第29期(H26/6) 2Q業績比



- ✓ 売上高の増加

エボラ熱の検査対応のために、DNA自動抽出装置の追加受注があった事とアボットグループ向け検体前処理自動化装置の出荷が順調に推移した事によるものです。
- ✓ 売上総利益の増加

上記売上増によるものです。
- ✓ 販管費の増加

上市を控えた全自動遺伝子診断システム (geneLEADXII)のソフトウェア改良により、研究開発費が大きく膨らんだ事による費用増加が主な理由です。
- ✓ 営業外収益(為替差益)発生

前期比35百万円増の為替差益が発生した事もあり経常赤字額は営業赤字に対して縮小しました。

✓ 前年同期は有価証券売却益の実現による特別利益を計上

当四半期は純損失を計上しました。

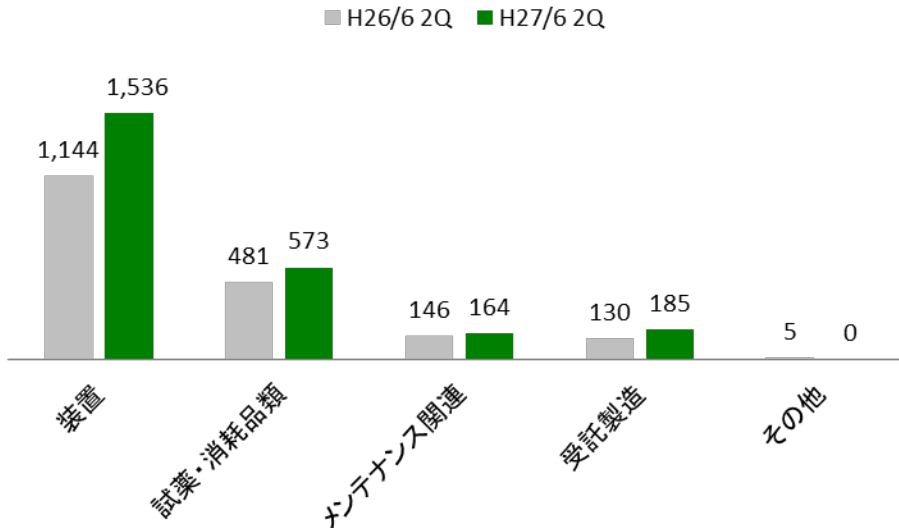
第30期(H27/6)2Q連結累計期間業績について②

● 第30期(取引先別と製品別)売上高の前期比について

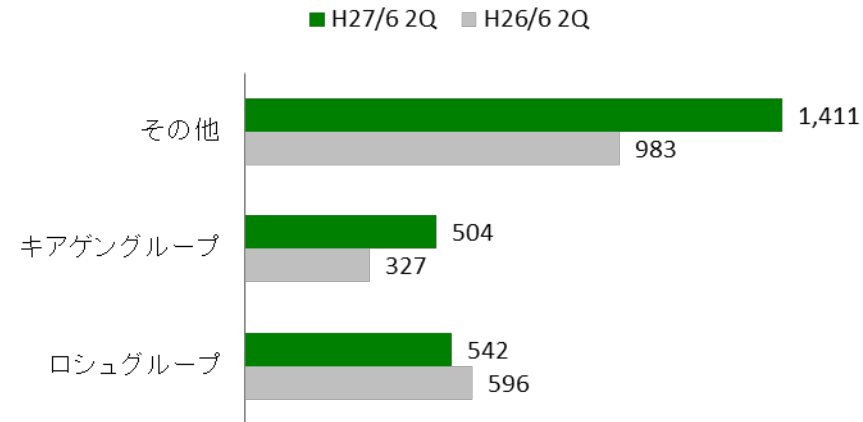
■ 遺伝子検査の臨床用途の拡大:米国FDAの認可承認を受けた、DNA自動抽出装置の用途が従来の研究開発分野から臨床用途に拡大しています。

製品別	✓(装置)売上高 対前期比売上高 34.3%増 ①ラボ(研究室)自動化装置 売上高1,016(前期比16.1%増) 448台の装置を出荷 ②臨床診断装置 売上高520百万円(前期比93.5%増) 196台の装置出荷と開発売上を計上
取引先別	✓(キアゲングループ向け)売上高 対前期比売上高 54.2%増 エボラ熱の検査対応のために、DNA自動抽出装置の追加受注があった事によるものです。 ✓(その他)売上高 対前期比売上高 43.5%増 アボットグループ向け検体前処理自動化装置の出荷が順調に推移した事によるものです。

▶ 製品別 (単位:百万円)

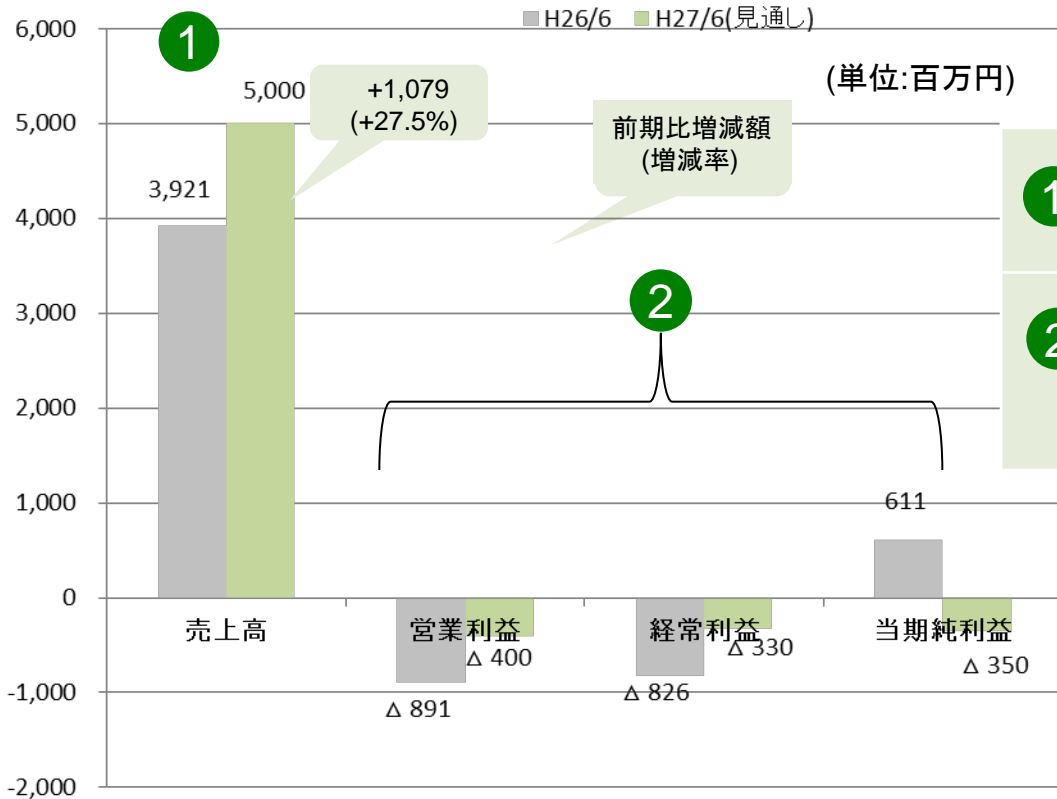


▶ 取引先別 (単位:百万円)



第30期(H27/6)通期連結業績見通しについて

- 売上高は前期比大幅増収の見込みです。また中期事業計画当初見込み(45億円)も上回っています。
- 営業利益、経常利益は赤字見通しなるも、赤字幅は前期比大幅の改善見込み
- なお、為替の見通しは、1ドル=115円、1ユーロ=130円にて算定しております。



●第29期(H26/6)業績比

1

✓売上拡大:①エリテックグループとの提携によるgeneLEADの販売開始(DNA抽出試薬含む)②アボットグループ向けの検体前処理システム(2機種)の開発及び製品販売③DNA自動抽出装置の臨床分野用途が拡大

2

✓営業及び経常利益は赤字の見通しなるも前期比改善:売上拡大による大幅増収により赤字の見通しなるも前期比大幅改善の見込み。前期は有価証券売却による多額の特別利益を計上しました。

2, PSS中期事業計画(平成27年6月期～平成29年6月期)進捗

中期事業計画の進捗について

- PSSは、遺伝子診断市場のトレンドを捉え事業フィールドを研究開発分野から臨床診断分野へ移行し、製品構成は装置中心から試薬・消耗品ビジネスへの転換を掲げ、3カ年の中期事業計画を策定しています。その計画に対する第30期連結業績見込みは、期初に見込んだ以上の研究開発費等により費用増加要因はあるものの、売上高は当初計画の45億を大きく上回る50億円を見込んでいることから、事業展開は着々と進捗しているものと考えています。
- 第30期第2四半期期間においては、中期事業計画に沿ってアボットグループ向けの製品出荷、エリテックグループと「geneLEADXII」に関してOEM供給契約を締結しました。それと同時に、アボットグループ向けの試薬製造受託への対応並びに、エリテックグループ向けDNA抽出試薬の製造を開始するため大館試薬センターが本格的に稼働開始致しました。

アボットグループ向けの製品(敗血症の前処理)出荷開始

■Abbott社向けにOEM製造 (前処理自動化システム、専用プラスチック消耗品、アボット社試薬)供給を開始

敗血症 (Sepsis)の病院内における早期診断の有用性

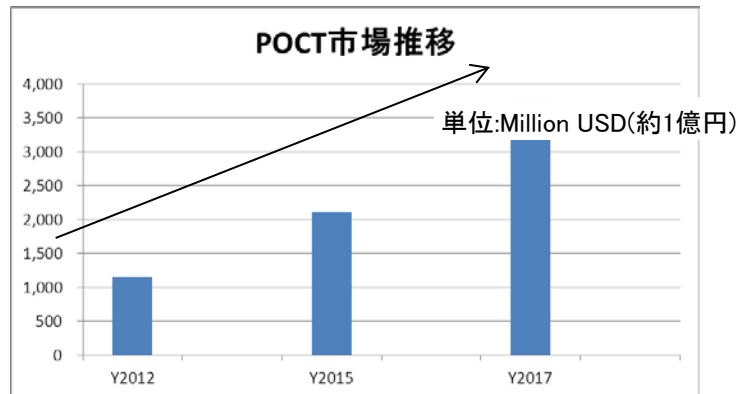
- ・敗血症とは、バクテリアなどの病原体が血液などに侵入するによって引き起こされた、全身性炎症反応症候群 (SIRS)を示す。
- ・ヒトは元来、病原体の増殖を阻止する抵抗力・免疫力を持つが、重度の感染症が進行したり、免疫力が低下したりすると細菌の増殖を引き起こすことがある。
- ・血液中に存在する微量の菌体を検出することができれば、敗血症のリスク低減に有効な診断となります。

PSS、アボット社向け検体前処理システムの製品供給契約を締結

(平成26年11月14日プレスリリース)

アボット社の新製品向け検体前処理システム(2機種)の製品供給契約を締結しました。本契約の締結により、PSSは自動化システム並びに専用プラスチック消耗品のOEM供給を行います。また、本システムに搭載されるアボット社の試薬に関し、PSS大館試薬センターで受託製造を行うことも決定いたしました。

病院で利用される市場の成長可能性 (POCT市場)



Jain PharmaBiotech, "Molecular Diagnostics", July 2013

同システムで採用された技術を搭載したPSS製品MagLEAD®



ELITechグループと「geneLEADXII」に関してOEM供給契約を締結

- 「geneLEADXII」に関するOEM供給契約を締結いたしました。(平成27年1月6日プレスリリース)
- 抽出工程部分の試薬はPSS製品を供給する計画です。

ELITechのCEO であるMike Saunders氏コメント

「今回の合意は、遺伝子分析市場で、急成長する2社の経験、技術力を結集することで成立しました。PSSの遺伝子診断分野におけるユニークなシステム開発技術とELITechが保有する広範囲の診断試薬との組み合わせが、今後成長が期待される遺伝子診断市場にて、新たに魅力的な遺伝子診断プラットフォームの提供を可能にするものです」

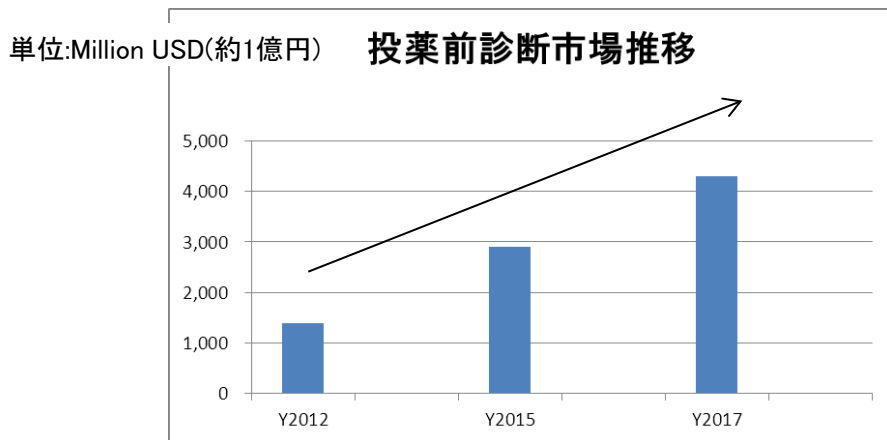
PSSの田島秀二社長コメント

「遺伝子診断プロセスは複雑であり、またユーザーニーズも多岐に渡るため、適切な装置と診断試薬、そしてこの分野における経験によって事業を拡大させることが、顧客の期待に応えるための必須条件です。今回のPSSとELITechのOEM供給契約締結は、遺伝子診断分野における画期的なソリューションを提供する全く新しい事業モデルになりうるものと確信しています」

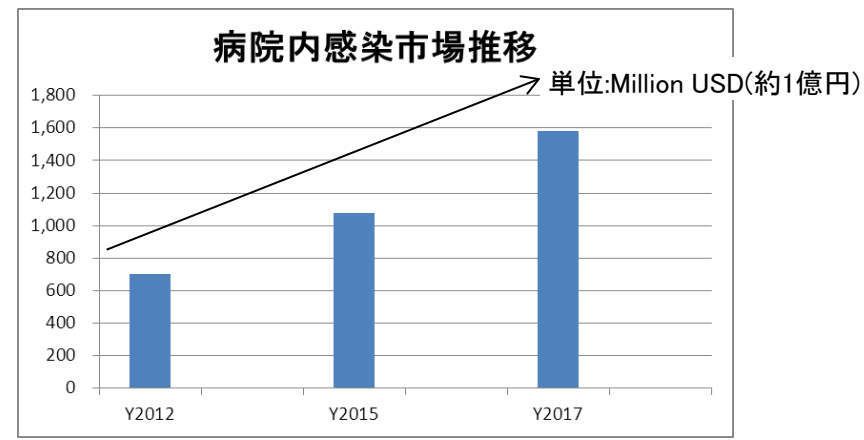
geneLEADの想定する市場ターゲット

①ーガン治療における投薬前診断(EGFR、K-ras、Her2検出など)

②ー病院内の感染症予防(MRSA, SA, C. difficile, VRE等)



Jain PharmaBiotech, "Molecular Diagnostics", July 2013



Jain PharmaBiotech, "Molecular Diagnostics", July 2013

大館試薬センターの本格稼働開始

✓ プレスリリース「PSS大館試薬センター稼働のお知らせ」(平成26年11月14日)

取引顧客の要請に対応するために当初の操業開始予定時期(平成27年2月)を前倒して、平成26年11月より本格的に試薬製造を開始致しました。今後の稼働予定としては、アボットグループ向けの試薬製造受託への対応並びに、エリテックグループ向けDNA抽出試薬の製造を開始します。



PSS新規事業(新製品)展開

- ✓ **インフォメーション** PSS新規事業(新製品)説明会開催される(平成26年12月3日東京)
 東京証券会館にて、「PSS新規事業(新製品)説明会」が開催されました。当日は、投資家の皆様や取引先、協力会社等たくさんの方々にご来場頂きました。参加者の皆様に装置の動きをご覧いただきながら、各担当者より製品開発の経緯や特長についてのご説明をさせて頂きました。田島社長のプレゼンテーションでは、PSSのシステム技術、並びに製品紹介、医療診断分野への参入プラン等が紹介され、活発な質疑応答が交わされました。



組織改革について

- ・役員の異動に関するお知らせ(訃報) (平成26年11月17日プレスリリース)
- ・機構改革及び人事異動のお知らせ (平成26年12月24日プレスリリース)

1.機構改革及び人事異動(平成27年1月1日付)

PSSグループ内の組織体制を見直し、今後の臨床診断市場への事業展開や試薬事業の本格的な立ち上げに備えて、今までより迅速な情報の受発信を国内外に行うため、組織体制を簡素化し、社内意思疎通の迅速化と責任体制の強化を目的として、統括本部制を廃止いたしました。

上記組織改革に伴い、下記のとおり、人事異動を発令しております。

氏名	新職
秋本 淳 (アキモト ジュン)	常務取締役 (管理本部担当)
池田 秀雄 (イケダ ヒデオ)	常務取締役 (技術本部・ソフトウェア開発本部 及び生産技術本部担当)
清水 徹 (シミズ トオル)	生産本部長
古川昭宏 (フルカワ アキヒロ)	営業本部長
Carl Hilliker (カール ヒルカー)	グローバルビジネス本部長 (兼)PSS USA社長

2.故小幡公道氏のお別れ会開催の報告(平成27年1月30日東京)

前取締役 故小幡公道氏は、PSSのグローバルビジネス(海外事業)展開の礎を築きあげて頂いた人物として、会社の歴史の中に刻まれています。PSS役員及び社員一同は、その礎に感謝するとともに、それを活かして、世界中の遺伝子診断事業で自動化システムを提供する事により、早期診断(感染症等)、テーラーメイド医療、警察鑑識等の診断分野でPSS製品が利用されて社会貢献をする事が、故人が果たした貢献に対する最大の恩返しだと考えており、国内外の全社員一丸となって事業展開を行う決意を新たにしました。ここに生前のご厚誼に深く感謝するとともに、謹んでお知らせ申し上げます。



3,トピックス

(上田診断システム開発本部長より)

本日は、PSSの事業説明の機会を頂きまして、誠に、ありがとうございます。
今後とも、ご理解、ご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

なお、本資料には、当社の計画と見通しを反映した将来予測に関する記述を含んでおります。これらは、本資料作成時において、入手可能な情報に基づいた予想値であり、潜在的なリスクや不確実性が存在しています。そのため、本資料に記載されている将来見通しが、実際の業績と大きく異なる場合があることを、ご承知おきいただきますよう、お願い申し上げます。

平成27年2月25日
プレジジョン・システム・サイエンス株式会社
URL: www.pss.co.jp

(お問い合わせは、IR・社長室まで)
電話: 047-303-4800
メール: ir@pss.co.jp